

演題「活用する力を育てる『深い学び』の授業づくりと学習評価」
～ 資質・能力の育成を基盤として ～

講師 早稲田大学教職大学院 教授 田中 博之 先生

主体的・対話的で深い学びのための学習要素

主体的・対話的で深い学びを成立させるための「6つの学習要素」の中で、特に「学習モデル」に注目しましょう。



学習モデルの活用を

学力に課題のある子供や特別な支援を必要とする子供も、安心して学習に取り組むことができます。

活用型の学習では、子供たちが問題解決や創作表現という高度な学習に取り組むため、最初の段階として「学習モデル」(コツ、技、手本)を示すことが大切です。

問題解決や創作表現には、茶道や華道のように活動の「型」があり、その習得と活用を教師が意図的に仕組まなければ、解答や作品の質が高まりません。

言語活動や思考活動のひな形として「話型・文型・思考型」という学習モデルがあります。これらは、決して子供に画一的で紋切り型の思考や表現を求めるものではなく、どの子供にも質の高い課題達成を保障するとともに、いつかはその型を外して自分なりの型を見いだせるようになることをねらいとしているものです。

田中先生が唱える「6つの学習要素」

学 習 ス キ ル	資質・能力
学習プロセス	課題解決の流れ
学 習 ツ ール	ホワイトボード、タブレット等
学 習 モ デ ル	コツ、技、手本の提供
学 習 チ ーム	支持的・協働的集団
学 習 ル ール	授業規律、学習の約束

【学習モデルの例】

《話型》
話合いや発表をするための話し方の手本
・予想と理由
「たぶん～だと思います。その理由は……」
・比較
「AとBを〇〇という点で比べると」
・例示
「たとえば、どんなことがありますか？」

《思考型》
課題に対する答えを導き出すための手本
・三段階思考法 「まず」「次に」「最後に」

《文型》
作文やレポートを書くための書き方の手本
「5W1H」
「はじめ、なか、おわり」
「起承転結」

データが根拠として十分かどうか、結論に説得力があるかどうかなど、内容面の検討も大切にしよう、子供たちに意識させることが大切です。

活用する力は、すぐには育ちません。6つの学習要素を取り入れた実践を継続して行い、活用する力を育てることが大切です。



学力向上研修会

平成 30 年6月 28 日(木) に富山市婦中ふれあい館において、小・中学校、関係機関等から約 230 名が参加して開催されました。

主体的・対話的な学びを「深い学び」につなぐために

理由や根拠を示しながら、論理的に説明する活動を充実させましょう。

資料やデータに基づいて考察したり、検証したりする活動を

学習課題の解決に向け、資料やデータから何が読み取れるのかを考え、話し合う活動を取り入れることで、思いつきや勘ではなく、友達との対話を通して根拠に基づいた自分の考えを形成することができるようになります。

【実践例】 ・興味深い学習課題を提示し、その解決につながる資料を資料集、図書、インターネット上の情報等から見付け出し、資料やデータに基づく理由や根拠を示して発表する活動等

複数の資料や観察結果の比較等から多面的な思考を

共通点や相違点、関連性を検討し、結論を出すなど、複数の資料や観察結果から判断する活動を取り入れることで、多面的な思考から新たな問題を見付けたり、他の検証方法の必要性に気付いて試したりすることができるようになります。

【実践例】 ・空気の温まり方の特徴を、既習の水や金属の温まり方と比較して説明する活動
・世界の気候について学ぶときに、世界各地の雨温図を比較しながら、経度、海流、偏西風等の気候に影響を与える要因を探る活動等

全国学力・学習状況調査の分析結果を活用して、2学期からの授業改善へ

今年度の全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。7月末に分析支援ソフト「我が校の学力・学習診断ソフト」を学力向上推進チームのホームページからダウンロードすることができるようになりました。CDも8月上旬に配布しました。ぜひ、夏季休業中に、調査問題・調査結果を活用して、2学期からの授業改善に生かしてください。

がんばろう
富山の先生！



《取組例》

- 誤答傾向や理解が不十分な領域・内容を把握し、指導計画の見直し、授業改善の手がかりとする。
- 文部科学省の「解説資料（5月発行）」や「報告書（8月下旬発行予定）」、県教育委員会の「特徴的な問題」を参考にして、課題のある内容の改善に向けて、実態に応じた指導計画を立てる。
- 質問紙調査の結果から自校の児童生徒の生活面における課題を把握し、2学期以降の取組を検討する。

問題の傾向や問題に込められたメッセージを理解した上で「自校の課題」や「各教科で育成すべき力」「それぞれの学年で付けておくべき力」等について話し合いましょう。

夏季休業中に調査問題・調査結果を活用した校内研修会の実施を！

